

# 第 2 編

---

## 基本構想

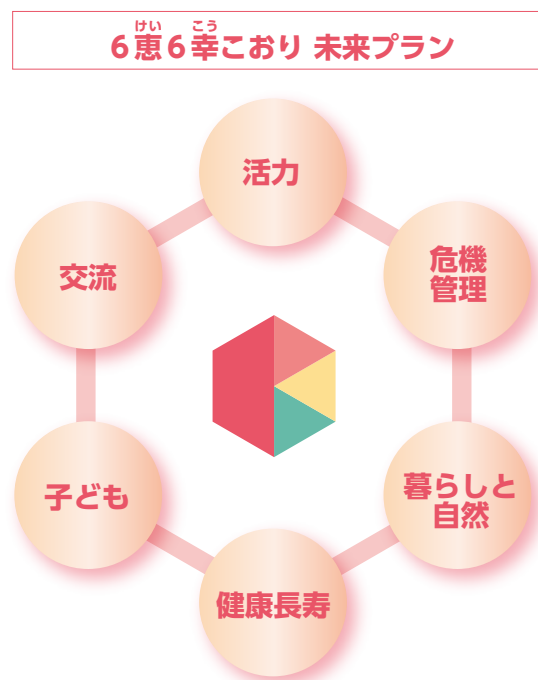
第 1 章 町の将来像(10年後に目指すべき町の姿) .....	24
第 2 章 基本方針 .....	25

「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」では、前総合計画で掲げた将来像を発展的に継承し、温かみのある町民みんなが、自然や歴史、文化、産業、教育など、本町の特色ある恵まれた地域資源を最大限に生かしながら、元気や活力があふれる“輝かしい”未来に向かって魅力的なまちづくりを推進する姿を、「町の将来像」として次のように掲げます。

## 「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」

- 「みんなが幸せを実感できる」は、町民みんなが、自然・歴史・文化など、先人たちが築き大切に継承してきた恵まれた地域資源に誇りと愛着をもち、安全・安心な生活環境で育ち、学び、心身豊かに暮らしている様子を表します。
- 「元気なまち」は、町民みんなが、夢や希望、生きがいを持ち、元気に活躍している様子を表します。

この計画は、6つの方針に基づき各種施策を展開し、将来像の実現を目指す計画であることから、「**6<sup>けい</sup>恵(K) 6<sup>こ</sup>幸(K)こおり 未来プラン**」をサブタイトルとして掲げ、体系的かつ横断的に事務事業の推進に取り組んでいきます。



町は、平成28年度の「献上桃の郷」商標登録を機に、町の宝である自然、歴史、文化などを「桑折ブランド」として確立するため、上記ロゴマークを制作しました。

このマークは、町民の温かさや桃、半田山などをイメージした色や、人と人、過去・未来とのつながりをイメージし、雪の結晶の形でもある六角形でデザインされています。

六角形は、バランス・調和の象徴で、亀甲模様など、古来より長寿吉兆の象徴として縁起の良い形とされており、「6恵6幸」には、町民みんなの調和・安定や幸せ、過去と未来や人とのつながりへという願いも込められています。

総合計画では、町の将来像実現に向けて6つの方針を設定し、あらゆる行政分野において、「南東北三県の結節点に位置する地理的優位性」「歴史と文化の薫りの高さ」「自然の恵みの豊かさ」「温かみのある人柄」など、本町にしかない優れた地域資源を最大限生かすとともに、小さい町ならではのスモールメリットを生かした十分な横連携を図り、好循環の連鎖を生み出すことで、桑折ならではのまちづくりを総合的に進めていきます。

### 1 活力と賑わいに満ちたまちづくり

桑折ならではの魅力と特色を生かした活力と賑わいに満ちたまちをつくるため、農業振興では、「献上桃の郷」の産地継承に向けて、新規就農者後継者の育成を支援するとともに、農業振興活動拠点施設「レガールこおり」の活用や有害鳥獣対策などに取り組み、町農産物のブランド化や6次化商品開発の推進などにより、農家所得の向上を図ります。

また、商工業振興では、伊達桑折インターチェンジ周辺の交通環境の充実を内外へPRしながら、企業誘致による新たな雇用創出などに取り組みとともに商工会などと連携しながら、魅力的な商業環境づくりやサテライトオフィス<sup>\*</sup>の整備などを行い、地域経済の活性化を図ります。

さらに、土地利用では、地域の特性や自然環境との調和を図るとともに、駅前公有地(福島蚕糸跡地)への商業施設を核とした複合施設の誘致など、利便性・快適性が高い機能が集約した都市的土地利用を推進します。

### 2 危機管理に備えた安全・安心のまちづくり

役場庁舎を拠点とした危機管理に備える体制の充実をはじめ、災害時に最前線に立ち、生命や財産を守る消防団員の活動環境の整備、湛水<sup>\*</sup>防除対策の強化など、自然災害に備える体制強化はもとより、コロナ禍の経験を踏まえた防疫対策の強化にも万全を期してまいります。また、「自助<sup>\*</sup>・公助<sup>\*</sup>・共助<sup>\*</sup>」の考えのもと、町内会や住民自治協議会などと連携を図りながら、消防・防災の強化や生活安全対策の推進に取り組み、みんなが安全・安心に暮らせるまちをともに創ります。

### 3 暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり

町の誇り・宝である恵まれた自然を守り、次世代に継承できるよう、森林環境を保全しながら、みんなが便利で快適に暮らせる豊かなまちをつくるため、都市緑化や歴史的な景観形成のほか、道路交通ネットワークの整備や住生活環境・環境衛生の充実に取り組みます。さらに、地球環境保護のため、脱炭素社会<sup>\*</sup>実現を推進するとともに、再生可能エネルギーの導入推進を図ります。



相馬福島道路の全線開通により、交通の利便性が格段に向上(令和2年7月)

## 4 健康長寿で元気なまちづくり

みんなが心身ともに健康で生き生きと暮らせるよう、健康づくりと医療の推進を図るとともに、生涯スポーツ事業と連携した体力向上と健康増進に取り組みます。

また、誰もが安心して生きがいを持って暮らせるよう、地域福祉と障がい者福祉、高齢者福祉の推進とともに、生涯学習事業と連携し、社会参加の促進を図っていきます。

## 5 子どもを大切にすまちづくり

「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と町内外から評価されるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に取り組む「桑折版ネウボラ<sup>\*</sup>」を推進し、子育て支援の充実を図ります。また、待機児童ゼロの堅持や幼児教育の質の向上、学力向上対策の推進や学校教育環境整備(GIGAスクール構想<sup>\*</sup>)などにより、乳幼児保育・教育や学校教育のさらなる充実を図るとともに、みんなで子育て・教育に携わり、人間としての基本を身につけ、目標に向かって高い志をもち、強みを発揮してたくましく未来を切り拓いていく「桑折っ子」を育成します。

## 6 交流で絆を育むまちづくり

みんなが互いに協力し、シティプロモーション<sup>\*</sup>を戦略的に推進することで、町民の地域への愛着と誇り(桑折プライド)の醸成を図るとともに、町の魅力や元気を積極的に発信し、桑折町の知名度向上に取り組みます。また、コロナ禍を契機に急速に普及したリモートワークやオンライン(インターネットにつながった環境)交流、密を避けられる地方への関心の高まりを踏まえた観光交流や歴史まちづくりの推進に取り組み、交流の輪を広げ、本町への新たな人の流れを創出していきます。

さらにはこうした各種取り組みの成果として育まれた絆を、関係人口<sup>\*</sup>づくりに生かしながら、若者定住や都市圏域住民などの移住促進につなげていきます。



桑折学習塾で桑折っ子の学習をサポート  
(令和3年6月)



町のシンボルとなっている旧伊達郡役所  
(平成30年6月)



## 7 計画推進に向けて ～町民との共創と効率的な行財政運営～

人口減少・超少子高齢化が進む中、行政施策については、これまでの「ものづくり(ハード事業)」から「ひとづくり(ソフト事業)」への転換が求められます。

公共施設の管理運営については、各種要因による税収減などを念頭に、指定管理者制度やアウトソーシング\*など民間活力の積極的な活用を図るとともに、近隣市町村との広域連携を推進し、施設の相互利用などを図りながら「フルセットの行政\*」からの脱却を目指し、限られた財源を有効に活用した健全で持続可能な財政運営に取り組んでいきます。

行政運営については、行政課題が複雑化・高度化している中であっても弾力的で柔軟な展開が図れるよう、職員育成を進めるとともに、組織機構改革を進め、各課を横断した連携体制の強化を図ります。また、役場庁舎の優れた機能の有効活用や、AI\*、IoT\*、RPA\*など新たな技術を導入した「行政のデジタル化」を推進しながら、効率的・効果的な事務執行を進めます。

町が目指す将来像の実現や持続可能なまちづくりに向けた各種施策は、SDGs\*の理念や目標達成に通じるものであり、SDGsの推進が総合計画の着実な推進につながるという表裏一体の関係性があるため、世界基準に照らした視点を意識し、町の施策とSDGsの17のゴール(目標)との関連性を明確に示し、SDGsを原動力とした地方創生を推進していきます。

なお、施策の推進に当たっては、「町民ファースト」はもとより、議会、各種団体、企業、大学、地域が連携し、新たなまちの魅力や地域の価値を共に創りあげていくことが重要であることから、時宜を捉えた広報広聴や、町内会、住民自治協議会など自主的に活動する団体への支援を図るとともに、モニター制度などにより町民の生の声を聞き、施策に反映させるなど、町民参画の共創のまちづくりを推進し、「町民に寄り添い、町民に信頼され、町民とともに歩む役場づくり」を推進します。



町民と協働で開催した桑折地区防災訓練  
(平成30年10月)



福島信用金庫・三井住友海上火災保険株式会社と  
SDGsに関する包括連携協定を締結  
(令和3年5月)